



熊本県 合志市

農商工連携事業 取組事例

2021年度版



農商工連携 概要説明

合志市では、かねてより稼げる農業の基盤づくりとして、商工部門、農研機構、包括連携協定団体などと連携し、農業の6次産業化及び農商工連携の推進やブランド化に取り組んできました。

さらに、6次産業化や農商工連携を進めるため、医福食農連携による取り組みに加え、ブランド化や特産品の創出および販路拡大や所得の向上、経営安定化を目指した農商工連携による結びつきの強化のため、農業への支援体制の強化を目指す取り組みを行っています。

平成22年度から令和2年度までの事業を一部ご紹介します。
皆様の産業振興の参考としていただければ幸いです。



ドローン事業 現地検討会

目次

01 特産品開発プロジェクト	2
CASE 01 オメガ3プロジェクト	
CASE 02 ハロウィンスイカ事業	
CASE 03 甘草事業	
CASE 04 赤大豆六次化事業	
CASE 05 WE米事業	
CASE 06 地域特産品開発アドバイザー事業	
02 産学官連携プロジェクト	4
CASE 07 熊大薬学部麦研究事業	
CASE 08 県大機能性表示研究事業	
03 合志農業活力プロジェクト	5
CASE 09 農業活力PJ	
CASE 10 合志ローカルリーダー事業	
CASE 11 アマランサス事業	
CASE 12 HALO JAPAN FOOD の商品化事業	
04 クマモト未来型農産業コンソーシアム推進協議会関係	7
CASE 13 ほうれん草周年栽培事業	
CASE 14 農業ビジネススクール	
CASE 15 たけのこ事業	
CASE 16 ドローン事業	
CASE 17 県産食材流通事業	
05 連携事業	9
CASE 18 異業種連携事業	
CASE 19 社会福祉協議会連携事業	

01 特産品開発プロジェクト



CASE 01

オメガ3プロジェクト

合志市内の畜産農家は、九州地域バイオクラスター推進協議会と共に、家畜を健康に育てるフランスの取り組みを全国に先駆けていち早く取り入れました。フランス産の機能性油脂オメガ3を豊富に含む飼料を給餌する方法を確立し、オメガ3を豊富に含む卵や牛乳、牛肉などを生産・販売に成功し、さらに原材料として利用した様々な商品開発が行われています。

この国際的な取り組みからできた商品群は、様々なコンテストやメディアに取り上げられ、行政機関などからも高い評価を得ています。今後、さらなる新商品開発及び販路拡大が期待されます。

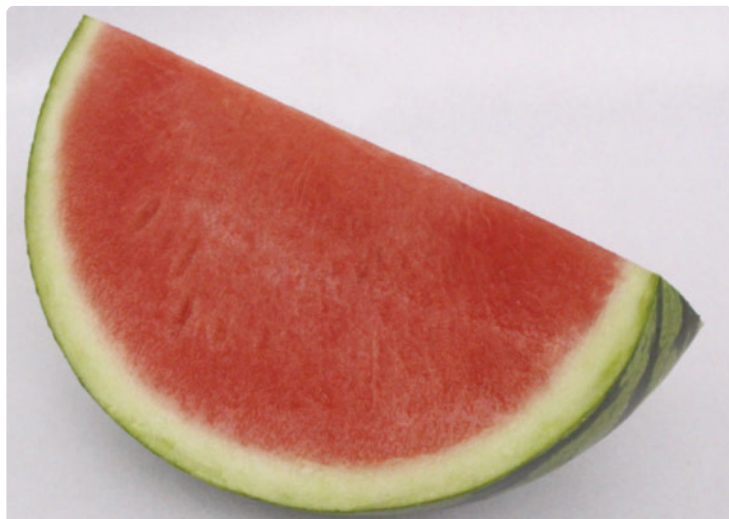


CASE 02

ハロウィンスイカ事業

合志市とJA菊池西瓜部会の共同プロジェクトで、秋に収穫できる秋スイカを栽培、「ハロウィンスイカ」としてブランド化し、平成30年10月より関東・関西圏を中心に販売。熊本の特産品であるスイカを一年を通してPRすることが可能となりました。

高糖度の種が気にならない甘いスイカを地域の子供達にふるまうなどのイベントを開催。メディアからも注目される取り組みとなりました。



熊本県地域づくり夢チャレンジ 大賞受賞（蒲島熊本県知事と受賞者の皆様）



CASE 03 甘草事業

合志市は専門機関と連携し、有用な薬用植物「甘草」の国内生産技術開発と利用に取り組んできました。

現在、東海大学と連携し、耕作地の拡大を容易にする栽培技術の確立と薬用以外の利用による産業発展の可能性を研究し、地域活性化に取り組んでいます。



CASE 04 赤大豆六次化事業

一般社団法人クラッシーノこうしでは、“だいず畑のルビー”とも呼ばれるポリフェノールが豊富な赤大豆「ふくあかね」を出荷者協議会内で栽培・活用し、新商品開発が行われ、合志市の地域特産品化を目指しています。

地域ブランド化へ向け合志市と連携を強化して新商品開発を研究しています。



CASE 05 WE米事業

熊本製粉株式会社との共同事業。

難消化性のうるち米「WE米」を合志市で栽培し、熊本製粉株式会社が「WE米」の機能性のある米粉を活用した商品を複数開発し、販売が行われています。



CASE 06 地域特産品開発 アドバイザー事業

特産品開発アドバイザーの山川氏と連携した6次産業化の取り組みです。令和2年度には家庭で育てる苺「わたしの、いちご」を開発しました。さらに、熊本県だけではなく全国を市場とした新しい合志市の特産品開発を目指しています。



インタビュー動画

02 産学官連携プロジェクト



CASE 07 熊大薬学部麦研究事業

合志市は機能性植物を用いた特産品開発に関して熊本大学薬学部と包括連携協定を結び、平成28年より機能性麦についての共同研究(栽培・商品化への取り組み)を実施しています。この機能性麦を活用した商品化を研究しており、地域特産品となることが期待されるプロジェクトです。



CASE 08 県大機能性表示研究事業

平成29年度より熊本県立大学の支援事業を活用し、農産物の機能性表示がもたらす地域特産品の高付加価値化と健康意識向上の共同研究を行っています。具体的な事例として合志市の地域特産品である「すいか」に機能性表示をつけ、健康志向の消費者向けに他産地のすいかとの差別化、すいかの栄養素の情報発信を行い、高付加価値による販売強化の検証を行いました。

今後も引き続き他の農産物の栄養素情報を発信し、ブランディングを強化します。

食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

熊本県立大学・熊本県合志市
地域貢献研究事業
友寄准教授監修

栄養機能食品 (ビタミンC)

ビタミンCは、皮膚や粘膜の
健康維持を助けるとともに、
抗酸化作用を持つ栄養素です。

名称	スイカ(熊本県合志市産)
栄養成分表 (400g当たり)	
熱量	176kcal
たんぱく質	3.2g
脂質	0.4g
炭水化物	40.0g
食塩相当量	0.4g未満
ビタミンC	32mg
試験体販売	熊本県安全安心研究所

●一日当たりの摂取基準値に含まれるビタミンCの量が栄養機能食品基準値(200mg以上、基準熱量200kcal)に達する場合は20%です。
●摂取の方法：食べやすい大きさに切って召し上がってください。
●保存方法：冷蔵庫(5〜10℃)で保存し、お早めにお召し上がりください。
●原材料の由来：本品は、産地産地により品質が変動したり、より健康が期待するものがあります。一日の摂取量を満たすものではありません。
●本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。

H29

学長交付金研究で表示事例
自治体への提案

H30

合志市地域貢献研究
自治体主体での生鮮食品機能性表示

スイカで機能性表示完成

機能性表示スイカで3月以降実証実験

R1

6次産業化外部資金獲得

その他の農産物でも表示して合志市の新たなブランドの立ち上げ

現場の販売
ノウハウの蓄積

03 合志農業活カプロジェクト



CASE 09 農業活カPJ

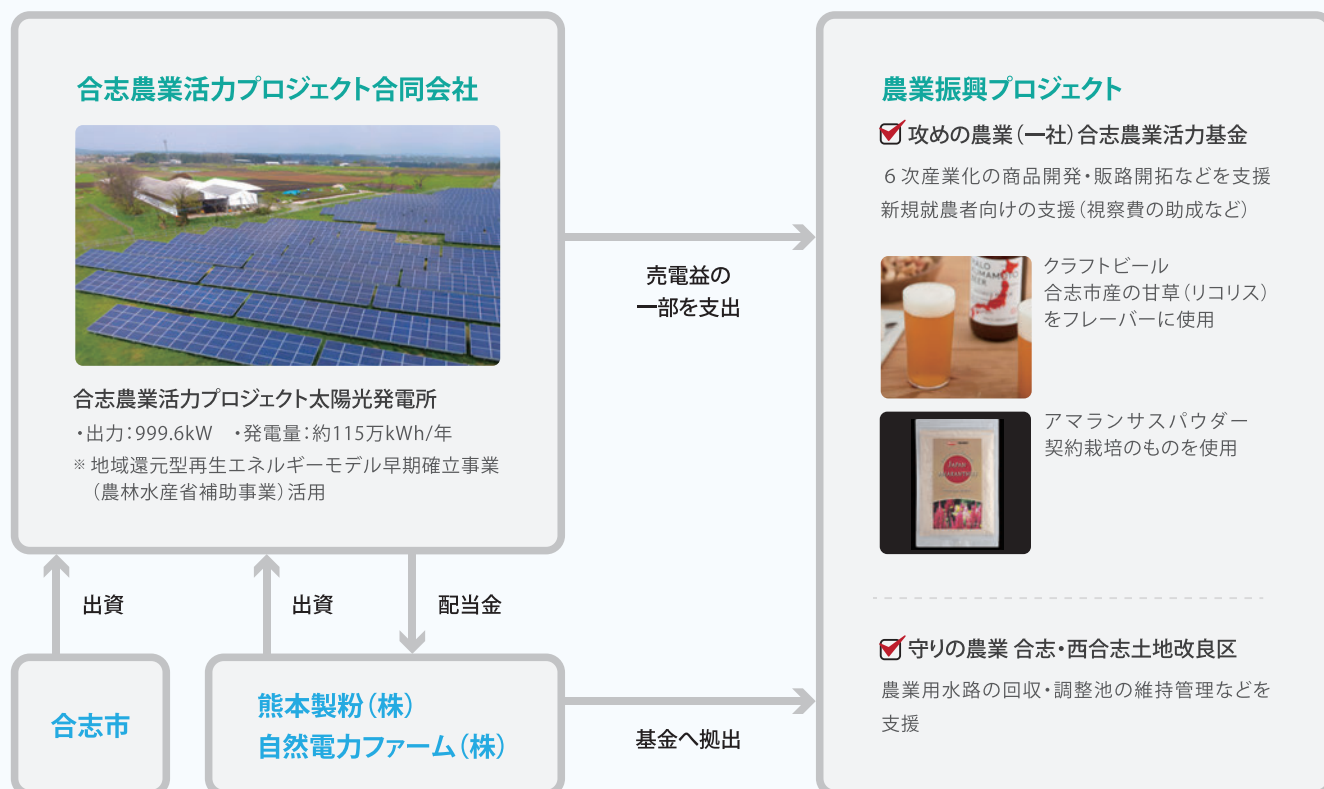
合志農業活カプロジェクトとは、合志市と民間企業である自然電力ファーム株式会社、熊本製粉株式会社が一緒につくる「合志農業活カプロジェクト太陽光発電所」の売電収益を使い、合志市の基幹産業である農業や土地改良・施設の維持管理費など長期的・多角的に還元していくプロジェクトです。

当プロジェクトは農林水産省の「地域還元型再生可能エネルギーモデル早期確立事業」にも採択されており、さらにアジア圏内のエネルギー業界における権威ある賞のひとつでもある「Asian Power Awards 2015」で「Solar Power Project of the Year」金賞を受賞しました。



©Shizen Energy Inc.

合志農業活カプロジェクト太陽光発電所



Point ①

利活用が困難であった市の遊休地を活用した太陽光発電事業

Point ②

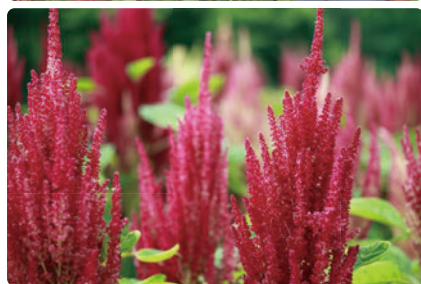
事業の収益を、農業振興のための基金や農業水利施設のインフラ改修に活用



CASE 10

合志ローカルリーダー事業

合志リーダーカンファレンス／合志リーダーズスクールの活動を通して地域コミュニティのハブとなりえる人材を育成、すでに事業を有するだけでなく、これから地域でのプロジェクト活動を推進する熱意のあるリーダーをコミュニティ化し、合志市の新しいビジネスや取り組みが生まれやすい基盤を創り出すプロジェクトです。



CASE 11

アマランサス事業

2019年5月より熊本製粉株式会社が合志市・JA菊池の協力のもと、スーパーフードとして注目されている「アマランサス」の栽培を合志市にて開始。

2020年4月には合志市産アマランサスを使った「アマランサス ローストパウダー」を商品化・販売が実現しました。



CASE 12

HALO JAPAN FOOD の商品化事業

自然電力ファーム株式会社が2018年に立ち上げた食品ブランド「HALO JAPAN FOOD (ハロージャパンフード)」の第一弾商品として、合志市産のリコリス(甘草)を使用した「HALO KUMAMOTO BEER (ハロー熊本ビール)」、また合志市で栽培された旬の野菜を使用した「HALO KUMAMOTO CHIPS」を令和元年11月より商品化・発売を開始しました。



04 くまもと未来型農産業 コンソーシアム推進協議会関係

平成29年度に設立された「くまもと未来型農産業コンソーシアム推進協議会」により、農・産・学・金・福・官による連携で多面的な事業を実施。総合的な支援を行うことにより農業の振興、発展を軸とした地域活性化及び新たな技術・産業の創出、集積を図る取り組みです。

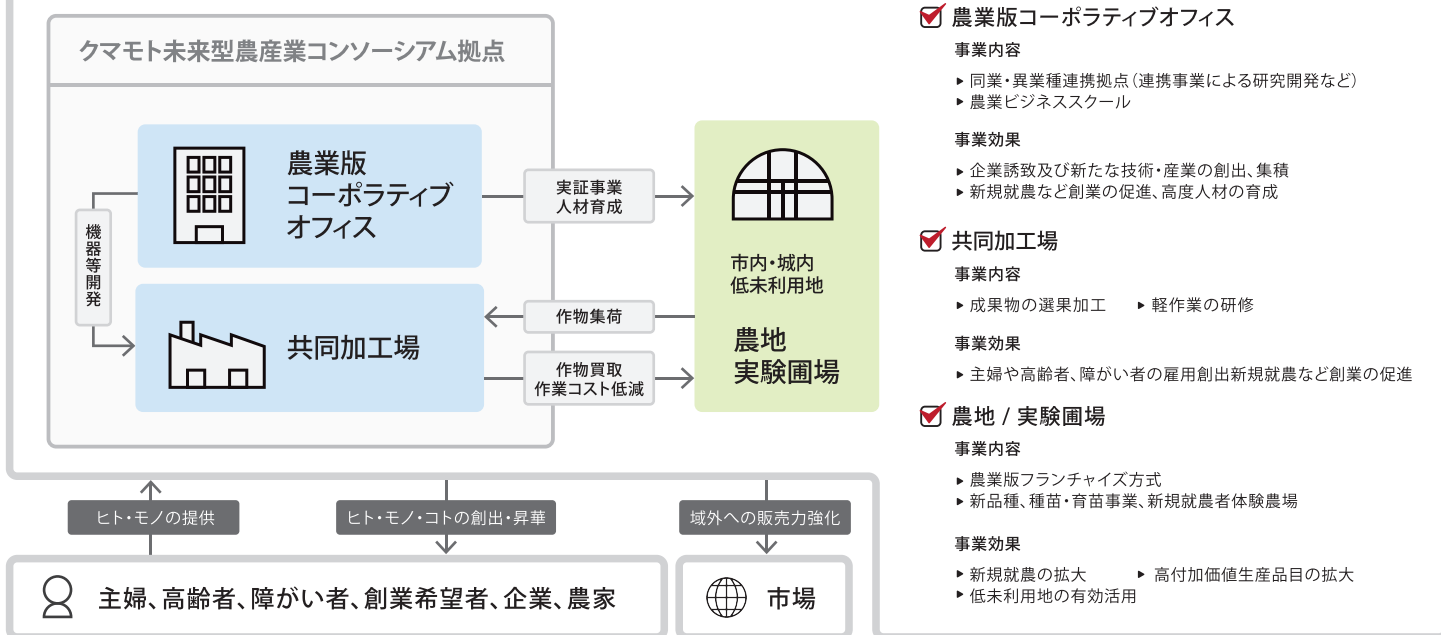


くまもと未来型農産業コンソーシアム推進協議会

農・産・学・金・福・官による連携。多面的な事業実施、総合的な支援を行う。



農業の振興、発展を軸とした地域経済活性化
及び新たな技術・産業の創出、集積を図る



CASE 13 ほうれん草周年栽培事業

くまもと未来型農産業コンソーシアム協議会員の株式会社ビタミンカラーによるほうれん草の周年栽培事業。省人化が可能な環境制御型生産施設で、ほうれん草などの葉物野菜の周年栽培を行い、特に供給が不足する夏場に販売を行うことで、他産地との優位性を図ることが可能となりました。また、ほうれん草などの葉物野菜は軽量であることから、新規就農や離農高齢者にも推奨する取り組みです。



CASE 14 農業ビジネススクール

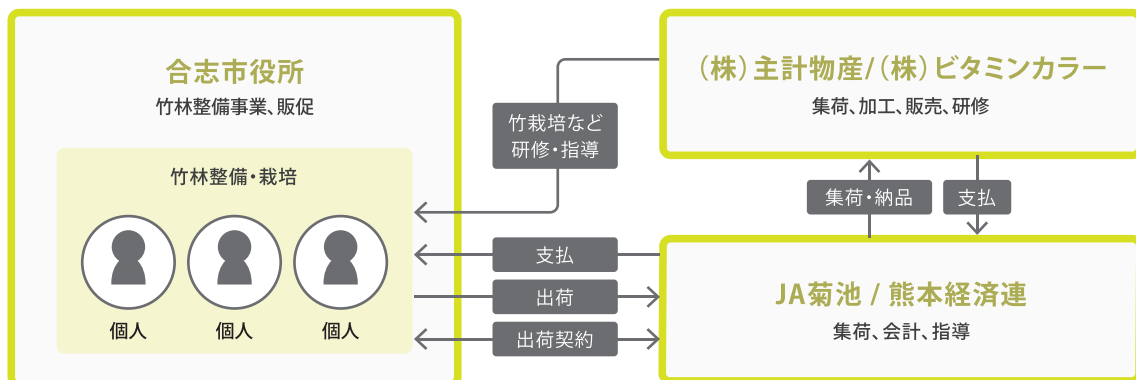
生産技術だけではなく、マーケティングや経理など、農業の産業化を推進し、事業者の経営力を強化することに特化した農業ビジネススクール及びe-ラーニングの配信サービスを実施、高度人材の育成を目指して授業を行っています。





CASE 15 たけのこ事業

合志市の竹林整備・景観保全と合わせ、タケノコを原料供給として竹林所有者の所得向上を図る取り組みです。令和2年度で事業モデルを確立し、竹林整備や栽培・採取に関わる技術向上、令和3年度以降たけのこの特産品化や学校給食などへの浸透を図り、地域の活性化を目指します。



CASE 16 ドローン事業

クマモト未来型農産業コンソーシアム協議会員のマツハロック九州株式会社と株式会社レイメイ藤井が、熊本県初となる認定農業用ドローンスクールとして合志市に九州農業ドローン学校熊本校を令和2年6月に開校。稲作などへの農薬散布をドローン活用により、消毒費のコスト縮減並びに若手農業者の人材育成と所得向上を目指すことが可能となりました。今後JA菊池と連携をとり、地域農業者への普及を目指します。



ドローンスクールの開校

クマモト未来型農産業コンソーシアム協議会

九州農業ドローン学校

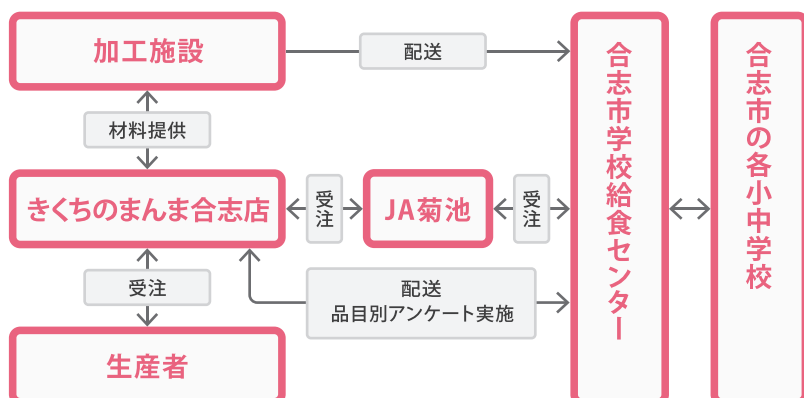
- ・飛行技術指導
- ・安全運用管理
- ・情報提供
- ・機体販売
- ・機体保守
- ・機体修理
- ・防除請負
- ・圃場管理
- ・商品開発

効率化

- ・農薬散布
- ・肥料散布
- ・播種
- ・センシング
- ・病害虫対策
- ・鳥獣害対策

未来のICT農業の実現

- ・担い手の確保
- ・土地の有効活用
- ・資産の継承
- ・人口の増加



CASE 17 県産食材流通事業

合志市における地産地消の推進を目的とした、県北地域の学校給食向け県産食材(カット野菜・加工食品など)の流通事業です。令和元年度に生産者・納入業者・学校給食関係者などと導入実証を行い、継続的な供給へ向けての納品体制や直売所間連携などの供給システム構築を目指します。

05 連携事業



CASE 18

異業種連携事業

合志市内の若手建設業と連携し、新規農業参入と農地有効活用を図っていく取り組みです。

ゴボウの栽培やタケノコの出荷、竹林整備等の取り組みにより、事業の発展と地域社会への貢献を目指しています。



CASE 19

社会福祉協議会連携事業

合志市、社会福祉協議会、株式会社ビタミンカラー三者共催により、農業に興味がある方や農業の維持発展に賛同する方達のセカンドライフを応援する、地域の絆づくり推進事業「エンジョイファーム」を実施。農業に関する講座や農作業体験などを通じた地域の絆づくりを行いました。

合志市の高齢者に対する買い物支援を目的とした、移動販売車運行による「合志市おでかけ応援プロジェクト」を実施。身近な地域サロンや通いの場に足を運び、直接自分の目で見て買い物ができるようにすることにより、高齢者同士の見守りや交流、また地域サロンの周知も行うことが可能となりました。



エンジョイファーム（収穫体験）



合志市おでかけ応援プロジェクト

合志ブランド及びうまかもん店

「合志ブランド」は合志市産品をブランド化し、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す6次産業化を推進するためにはじまった取り組みです。

また合志市で生産される農畜産品やその加工品を食材などに使用する飲食店などを「合志のうまかもん店」として登録、広く合志市内外のみならず認知・利用していただくことで地元産品の消費拡大などによる地域経済の活性化を目的としたプロジェクトです。



合志ブランドロゴ



うまかもん店ロゴ

農商工連携補助事業

合志市における6次産業化または農商工連携による新商品開発を推進するための補助金制度により、様々な地域の特産品が誕生しました。

株式会社弁天堂による熊本製粉株式会社の玄米ミックスを使用した「玄米芋まんじゅう」や、ジンジバルによるグラニージンジャーの製造工程で出る残渣を利用した「ほんきのしょうが」ののど飴やかりんとう饅頭などのお菓子セット、うさぎ農園のピーツのドレッシング、栄イチゴファームのイチゴを使用した冷凍加工イチゴなど。

これらの商品は既に販売を開始、大手スーパーなどに卸したり、ふるさと納税の返礼品など、これからさらなる発展が期待されています。



合志市クリエイター塾

この合志市農商工連携事業パンフレットは、合志市生涯学習課が2016年より企画・運営する事業「合志市クリエイター塾」の卒業生により編集・デザインされています。「合志市クリエイター塾」とは、自分のまちで自分が伝えたいと思っている何かを世の中に発信するための知恵と技術を学ぶ塾で、2020年度までに160名の卒業生を輩出、合志市を中心に「クリエイター＝自分で発信できる人」として起業するなど各方面で活躍中です。



合志市クリエイター塾 受講の様子



合志市クリエイター塾卒業生によるインタビュー動画制作



インタビュー動画



ホームページ



市の木 クヌギ



市の花 カスミソウ

合志市紹介

熊本県合志市は、熊本市の北東部に位置する人口63,067人（令和3年1月末現在）、面積53.19km²（東西約12km、南北約8km）の市です。そのうち耕地面積が約22.5km²で合志市全体の4割程度が農地となります。

北部地域では、阿蘇の火山灰が降り積んだ黒ボクと呼ばれる火山灰性腐植土に覆われた広大な農地が広がり、県内有数の穀倉地帯となっています。特に畜産の生乳や肉牛、施設園芸のスイカや苺等が活発に生産されています。

住宅地や商業地は、国道や県道沿線に形成され、熊本市に隣接した南西部一帯に新市街地を形成しています。

熊本県合志市役所 産業振興部 商工振興課

〒861-1195 熊本県合志市竹迫2140番地

TEL:096-248-1115 FAX:096-248-1196

E-mail:syokou@city.koshi.lg.jp

発行日:2021年3月



YouTube
チャンネル



合志市
ホームページ